

Top Message	環境・CSR本部長 メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境会計／環境債務	事業活動における 環境負荷	GHGプロトコルスタンダードに基づく 温室効果ガス排出量の報告	補足データ	環境パフォーマンスデータ 算定基準	2016年度の環境活動に関する 報告対象組織の一覧表	第三者審査	GRIガイドライン対照表	

第三者審査

「富士通グループ環境報告書2017」および「富士通グループCSR報告書2017」は、開示内容の信頼性確保のため第三者機関ビューローベリタスジャパン株式会社による審査を受け、検証報告書を掲載しています。

温室効果ガス排出量検証報告書

富士通株式会社 御中



2017年6月27日



ビューローベリタスジャパン株式会社
システム認証事業本部

ビューローベリタスジャパン(以下、ビューローベリタス)は、富士通グループ環境報告書 2017 において富士通株式会社(以下、富士通)により報告される2016年度の温室効果ガス排出量に対して検証を行った。

1. 検証範囲
富士通はビューローベリタスに対し、以下の温室効果ガス排出量情報の正確性について検証し限定的保証を行うことを依頼した。

1) スコープ1及びスコープ2 温室効果ガス排出量
・富士通及び国内グループ会社 25 社、海外グループ会社 25 社の事業活動に伴う、2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日の期間におけるエネルギー起源 CO₂ 排出量
・半導体製造を行う富士通グループ国内 3 拠点の事業活動に伴う、2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日の期間における HFC、PFC、SF₆、NF₃ 排出量

2) GHG Protocol Corporate Value Chain (Scope3) Accounting and Reporting Standard に基づいて算定及び報告されたスコープ3 排出量のうち、カテゴリ1、4、11 の排出量。但し、各カテゴリにおける算定範囲は富士通の決定に基づく。

2. 検証方法
ビューローベリタスは、ISO 14064-3(2006): Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the validation and verification of greenhouse gas assertions の要求事項に従って検証を行った。
ビューローベリタスは、限定的保証の一環として以下の活動を行った。
・温室効果ガス排出量を特定し算定する責任のある富士通の関係者へのインタビュー
・温室効果ガス排出量を決定するために用いられた情報に対する、富士通の情報システムと収集・集計・分析方法の確認
・温室効果ガス排出量の正確性を確認するための元データのサンプル監査

3. 結論
実施した検証作業とプロセスによれば、温室効果ガス主張が以下であることを示す証拠は認められなかった。
・著しく正確性を欠き、対象範囲における温室効果ガス排出量データを適切に表していない
・富士通が定めた温室効果ガス排出量算定方法に従って作成されていない

検証された温室効果ガス排出量		
スコープ1 208 kt-CO ₂ e	スコープ2 1,021 kt-CO ₂ e	スコープ3 7,039 kt-CO ₂ e

スコープ3 排出量の内訳は以下の通り。
カテゴリ1: 2,432 kt-CO₂e | カテゴリ4: 41 kt-CO₂e | カテゴリ11: 4,566 kt-CO₂e

【独立性、公平性及び力量の声明】
ビューローベリタスは、独立保証業務の提供に180年の歴史を持つ、品質・健康・安全・社会・環境管理に特化した独立の専門サービス会社です。検証チームメンバーは、当該任務の要求範囲外において、富士通とのビジネス上の関係は有していません。ビューローベリタスは、日常業務活動におけるスタッフの高い倫理基準を維持するため、倫理規定を導入しています。検証チームは、環境・社会・倫理・健康・安全の情報・システム・プロセスに対する保証について広範囲な経験を有しています。

富士通グループCSR報告書2017
富士通グループ環境報告書2017
第三者検証報告

富士通株式会社 御中



2017年7月25日



ビューローベリタスジャパン株式会社
システム認証事業本部

ビューローベリタスジャパン株式会社(以下、ビューローベリタス)は、富士通株式会社(以下、富士通)の責任において作成された「富士通グループCSR報告書2017」「富士通グループ環境報告書2017」(以下、レポート)に記載されるサステナビリティパフォーマンス指標のうち、富士通から要請のあったものに対して検証及びレビューを実施した。
検証の目的は、レポートに記載されるサステナビリティパフォーマンス指標の信頼性及び正確性を客観的証拠に基づき評価し、独立した立場から限定的保証意見を示すことである。レビューの目的は、レポートに記載されるその他のサステナビリティパフォーマンス指標の品質について、報告の改善のための評価を行うことである。

1. 検証及びレビューの概要
ビューローベリタスは、富士通との合意に基づき、以下の検証及びレビューを実施した。
2016年度の事業活動に基づく社会及び環境パフォーマンス指標に対する検証とレビュー

対象指標	訪問サイト	検証及びレビュー手続き
別紙1「対象とした社会パフォーマンス指標の一覧」に記載された全ての指標	・富士通 本社事務所 ・富士通 本店	・富士通本社によって策定された文書類の確認 ・責任者・担当者へのインタビュー ・収集・報告されたデータと根拠資料との照合
別紙2「対象とした環境パフォーマンス指標の一覧」に記載された全ての指標	・富士通 本店 ・富士通 明石工場 ・富士通 館林システムセンター ・FDK 株式会社 湖西工場 ・三菱富士通セミコンダクター株式会社	・富士通本店及び訪問サイトによって策定された文書類の確認 ・責任者・担当者へのインタビュー ・現場査察及びデータの計測プロセスに対する評価 ・収集・報告されたデータと根拠資料との照合

検証は、現時点での最良の事例に基づき、ビューローベリタスが定める非財務情報報告に対する第三者検証の手順とガイドラインを使用して実施された。ビューローベリタスは、本報告書に示された範囲に対して限定的保証を行うにあたり、国際保証業務基準 (ISAE) 3000 を参考にした。
レビューは、ビューローベリタスが定めるサステナビリティ報告に対する第三者レビューの手順を使用して実施された。

2. 検証及びレビューの結果
上述した検証の方法及び活動によれば、
・検証及びレビューにおいて確認した情報が正確でない、及び対象期間における実績を適切に反映していないことを示す事項は発見されなかった。
・富士通は、検証及びレビュー対象範囲の定量的なデータについて、収集・集計・分析のための適切な仕組みを構築していると考えられる。

ビューローベリタスは、全社員の日常業務活動において高い水準が保たれることを目指すためのビジネス全般にわたる倫理規定を定め、特に利害の対立を避けることに配慮しています。富士通株式会社に対するビューローベリタスの活動は、サステナビリティ報告に対するものだけであり、我々の検証業務がなんら利害の対立を引き起こすことはないと考えます。

Top Message	環境・CSR本部長 メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境会計／環境債務	事業活動における 環境負荷	GHGプロトコルスタンダードに基づく 温室効果ガス排出量の報告	補足データ	環境パフォーマンスデータ 算定基準	2016年度の環境活動に関する 報告対象組織の一覧表	第三者審査	GRIガイドライン対照表	

別紙 1

対象とした社会パフォーマンス指標の一覧

検証対象指標	ページ
女性リーダー育成プログラム受講者数	13
女性幹部社員比率	14, 57, 77
障がい者雇用率	14, 56, 77
制度利用者数	14, 63, 78
グローバルなビジネスリーダーの育成 次世代ビジネスリーダー育成プログラム受講者数	14
近隣住民との定期的なエンゲージメント実施状況(回数)の実績	15
地域社会貢献活動に関する社内データベース登録件数	15
ISO28000を活用したCSR活動	18
ISO アンケート対象範囲(グループ会社数等の数値)の実績	
取締役数	33, 77, 116
度数率(災害発生率)	68, 78
従業員数、平均年齢	77, 116, 118
年齢層別従業員数	77
新卒採用者数	78
地域別従業員数	77, 117
平均勤続年数	78
お取引先とともに『CSR 調達の推進』(書面調査社数)	95

別紙 2

対象とした環境パフォーマンス指標の一覧

検証対象指標	ページ
新製品のなかでエネルギー効率トップレベルである製品が占める割合	26
新製品の資源効率の向上率	28
事業系使用済み IOT 製品の資源再利用率	30
事業所における温室効果ガス(CO ₂ ・CO ₂ 以外)の排出量	32
事業所におけるエネルギー消費原単位の改善率	
輸送 CO ₂ 排出量 ※富士通(株)および国内グループ会社	37
水使用量	38
PRTR および VOC の排出量	39, 52
廃棄物発生量	
廃棄物有効利用率	40
INPUT(設計・調達・製造・開発)	水
INPUT(再資源化)	エネルギー
	資源再利用率
	化学物質
OUTPUT(設計・調達・製造・開発)	大気排出 温室効果ガス合計
	大気排出 CO ₂
	大気排出 CO ₂ 以外の温室効果ガス
	廃棄物発生量
	サーマルリサイクル量、マテリアルリサイクル量
	廃棄物処理量
OUTPUT(物流) 大気排出 CO ₂ ※富士通(株)および国内グループ会社	
Scope3(上流) 輸送・配送 ※富士通(株)および国内グループ会社	
Scope1(自社) 直接排出	
Scope2(自社) エネルギー起源の間接排出	
Scope3(上流) 購入した製品・サービス	53
Scope3(下流) 販売した製品の使用	
Scope1 および Scope2 のエネルギー使用量	54

レビュー対象指標	ページ
IOT の提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減貢献量	23
PUE 改善率	33
輸送における売上高あたりの CO ₂ 排出量の削減率	37
輸送 CO ₂ 排出量 ※海外グループ会社	
水使用量の削減量	38
環境会計	51
INPUT(設計・調達・製造・開発)	化学物質
INPUT(物流) エネルギー	
OUTPUT(物流) 大気排出 CO ₂ ※海外グループ会社	52
Scope3(上流) 輸送・配送 ※海外グループ会社	53